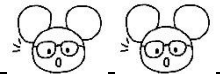


コロナ禍における授業改善。教えることがいっぱい！でも例年のような時間はない。キーワードはやっぱり、資質・能力の育成！！

授業改善プランに係る学校訪問の前半がそろそろ終了します。お忙しい中で授業を公開してくださり、ありがとうございました。子供達が元気にそしてしっかりと学びに向かっている姿、先生方が愛情いっぱい授業を行われている姿にいつも感銘を受けます。子供達に楽しくわかる授業を工夫されている様子がとても伝わってきました。授業後の協議では以下のような課題が先生方から出されています。ご自分の授業はどうですか？

事後研でよく出される課題 → みんなで共有した改善策



学習指導案上に「付けたい力」は記載されているが… →	言語材料に引っ張られ、言語材料の習得のみを目指した授業を行っている。
言語材料に関する知識や技能の習得はとても重要。その為にもどう学ばせるのかを考える。例えば「書くこと」の力を付けるのであれば、実際に書くことが求められる使用場面（コミュニケーションを行う目的、場面、状況等）を設定し、内容について自分の考えを書くために思考させ判断させて書くことを育成する。自校の「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標を基に、可視化したゴールの姿（こんな文を書けたらB評価）を目指し、単元のまとまりの中で、言語活動を通して付けたい資質・能力を育成していく。	
先生は丁寧に日本語で説明しているが… →	子供達の言語活動の時間が短くなっている。2回以上の言語活動が行えない。
子供達が気付き、考え、推敲していく時間を十分保証する。その為にも言語活動は2回以上設定する。また先生はやさしい英語や視覚支援を用いて先生自身の気持ちや考えを子供達に語る。そうすることで子供達が目指すロールモデルになり、授業を実際のコミュニケーションの場とすることができる。	
中間評価を設定しているが… →	付けたい力に対して指導ができていない。英語で表現できなかったことをどう表現すれば良いかの指導ばかり。
内容面(コンテンツや文の構成等)、言語面(英語の語彙や文法等)の評価をバランス良く入れ、付けたい力を育成する指導を行う。その指導で2回目の言語活動が1回目の活動より広がり深まることも重要。	

北陵中学校 ワークシートより

2nd gr

Reading
英文を読み、登場人物がいつに何をするか書いてみよう。

1 Mr. Oka came to Osaka.

It is about noon.

He is hungry.

What will he do?



2 Emi and Yuko are going to have a test tomorrow.

They studied for two hours in the library.

They are tired.

What will they do?



3 Taku has a CD in his hand.

He stands near the music room.

What will he do?



北陵中がこの単元で付けたい力は「読むこと」と「書くこと」の力。当日の授業で扱う言語材料は will でした。まず will の使用場面を何パターンも示してどのような状況で使用する表現なのかに気付かせ、実際に使うことで理解を促そうとしていました。

当日のワークシートは will の文構造のみに着目しても解答できないよう工夫され、文脈から判断して解答するよう、「読むこと」と「書くこと」の力を付けるために、意図的に作成されたものでした。

「文の内容は短くて簡単だけど。」と濱田教諭は謙遜されていましたが、単元のまとまりの中で資質・能力を育成する1単位時間となっていました。

茨城県教育委員会・日本英語検定協会が Bridge 全コンテンツの授業動画を作成しています。また、山田教科調査官が来年度からの評価についても具体例を出して説明している動画がアップされています。視聴にはパスワードが必要です。授業ですぐ使える動画となっていますので、そのまま使ったり、授業づくりの参考にしたりしてください。

<https://eigojoho.eiken.or.jp>

新学習指導要領対応 中学校外国語教材

Bridge



文部科学省

